

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 大東市

実践研究校名 住道南小学校

【公開授業】公開日：平成26年1月22日

住道中学校、泉小学校と合同開催

対象学年：6年

(教材・教科書名) Hi, friends! 2 (単元名) Lesson 4 Turn right. 「道案内しよう」	(本時の指導の目標) 1. 積極的に英語を用いて道案内をしようとする。 2. 行きたい場所や道案内の説明を聞きとろうとする。 3. ジェスチャーを使った表現に気付く。
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・授業の流れや活動を視覚的な支援と共にパターン化し、友達どうしでの会話やグループ活動を多く取り入れ、自信を持たせると共に友達とのコミュニケーションの喜びを感じられるように意識した。
- ・教師と児童のデモンストレーションを行い、態度目標を意識づけた。
- ・児童が前に出て、活躍する機会をつくるようにした。
- ・振り返りの時間の確保をした。

(授業を終えた教員の感想)

- ・授業の中の活動では、案内を聞き取れたらポイントを得られるという形だったが、反対にきちんと案内できたらポイントを得られるという方が、分かりやすかったように感じた。
- ・子ども達は、ジェスチャーを使いながら道案内をすることを楽しんでいて、表現に慣れ、自信をつけた様子であった。
- ・単語の練習では、もう少しテンポ良くできると良かった。

【研究協議会】

(テーマ) コミュニケーションの喜びが実感できる授業をめざして	(指導・助言者) 大阪府教育センター 教育課程開発部長 蛭田 勲 先生
------------------------------------	--

(研究協議会で出された意見)

- ・体ごと活動できるプログラムを準備して、子どもたちが積極的に楽しく取り組んでいた。
- ・かなり高度な英語の表現を小学校で学習していることに気づかされた。
- ・授業がパターン化されており、課題設定も分かりやすかった。
- ・活動の場面では、よく話していると感じた。おはじきを使用する場面では聞いただけの説明では分かりにくいのではないかと感じた。

- ・コミュニケーションに対する意欲関心が高く、その前向きな姿勢を中学校でも継続させるために、小中連携を充実させる必要性を感じた。
-

(まとめ)

1. 目標と評価規準を明確にすること、
指導と評価の一体化を行うこと、
形式的評価と肯定的評価を効果的に行うこと、
4技能+考える力を身につけさせる授業を工夫することが大切である。
2. 子どもにつけたい力をイメージできているか。そのイメージの具現化に向けた授業づくりになっているか。
3. 思考場面が設定され、知的負荷がかかっているか。
4. ふり返しシートの活用について。
 - ・できれば授業のはじめに配布。
 - ・感想だけでなく、本時のねらいに対する達成度を評価。授業の中で「分かったこと」「気づいたこと」等の認知面を言語化させる。
 - ・情意面に関わる表現は「関心・意欲」として評価。
 - ・ふり返しシートは、すなわち授業評価でもある。
5. デモンストレーションの意義について。
 - ・到達目標を確認するためにも重要な時間。
6. 「ほめる」と「ねぎらう」ことの違いについて。